

「震災死」テーマに本出版

今年1月、仙台市の東北学院大学教養学部地域構想学科の金菱清教授のゼミから、東日本大震災の「震災死」をテーマにゼミ生7人の調査結果をまとめた本が出版された。

日本大震災の「震災死」をテーマにゼミ生7人の調査結果をまとめた本が出版された。

日本大震災の「震災死」をテーマにゼミ生7人の調査結果をまとめた本が出版された。

震災死を研究し、その成果として、本を出版することになった。高校での学びや、1、2年生で受けた講義などから「輪廻転生」というものに興味を持っていた工藤さん。被災地で多く聞かれた靈的現象についてで石巻や気仙沼に通う生活が始まつた。出会ったばかりの人に「何か靈的現象を体験したことはありますか」と話題にすること。天気や祭りなどの行事の話や、交流から

以上に聞き取りを行つた。

ゼミ生それぞれの研究結果を集め、出版されたのが「呼び

・11生と死のはざまで」(新曜社)。工藤さんの章ではドラ

イバーが実際にタクシーに乗

せて会話をし、手を取つて降

ろしてあげた後、消えてしま

った女の子の話など、リアル

な体験談が収められている。

しかし、この調査で工藤さ

んが人々に伝えたかったの

は、幽霊など「靈的現象」そ

のものではないと語る。「問

題は幽霊がいるかいないかで

か。それがそれをどう感じ、どう受

け止めたのかということ。地

元の人たちは皆、亡くなつた

人たちに怖さではなく畏敬の

念を抱いている。もう一度会

えるならまたタクシーに乗せ

てあげたい、という人も多い

んです」

苦労した調査を終え、「達

成感や解放感がやはり大きい

ですが、終わりのない研究だ

と思つてるので、名残惜し

さもあります」という。卒業

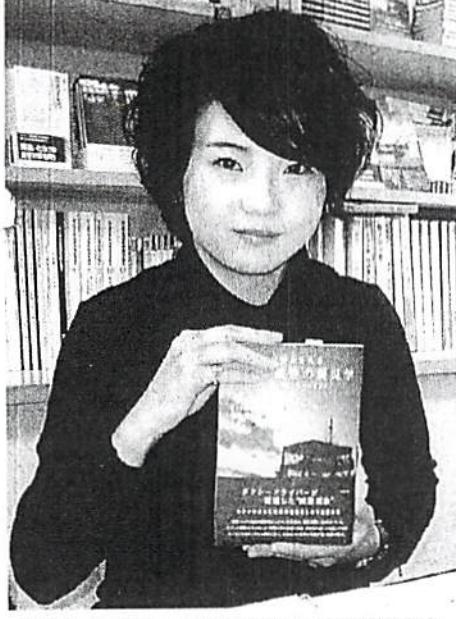
後は就職が決まっており、「で

きればその後大学院で、災害

についても深く学んでみた

大楽人

東北学院大4年
工藤優花さん (22)



くどう・ゆうか 秋田県出身。東北学院大学教養学部言語文化学科4年。趣味は音楽。学外のバンド活動にも精力的に参加している。

震災発生時、工藤さんは故郷である秋田県の高校2年生。直接的な被害はほとんどなかった。しかし環境社会学についての講義をする教授に魅力を感じて入ったゼミで、

〔早稲田大・木村由布花、写
眞も〕